

七、而して國土計畫的意味に於ける農工調整の土地  
が問題になるのは二つの面がある。一つは良田良畑を  
避けるといふこと、他は過剰な土地面積の占據を避け  
るといふことである。

農業の新種類敷地を求めて工場を新設する場合、先  
づ如何なる種類の土地が採れるかといふ点に、水に近  
く輸送に便よく濕田よりは乾田が採れる。山林や原  
野は切取りや盛土を要する場合が多いので田畑が採れ  
ぬ、斯様な土地は農業上の生産力も高いのである。田  
畑は自然として土地であるのみならず農業の爲の生  
産装置とも考へねばならぬから坪數が示す以上に農  
業は打撃を受けたのである。時には海岸で塩田が採れ

れることがあり、塩田も亦單なる土地でなくして生産装  
置である。特別の必要ある場合は別であるが、單に建  
設上の便宜といふことで良田や塩田を失ふのは國全体  
の生産力を高める上から採り難いのである。この頃こ  
の點は留意せらるゝやうになり、田よりは畑を採るが、そ  
れも良畑を避けて平地林を採る傾向にあるか、熟田良  
畑を避くべきは工場建設に際して恒に忘れてならぬ  
ことである。

八、工場が求める土地について次にその廣さの問題  
がある。今日新設される工場が一定の規模を必要とし  
るに應ずる敷地が一附屬住宅、菜園等を含めて一必  
要であること素よりであるが、屢々必要以上の面積が